

2016年6月15日

九州電力株式会社

瓜生道明社長

申し入れ

6月12日の八代地震を踏まえ、川内原発を即刻停止せよ

とめよう原発、かごしまの会

代表 平良行雄

〒899-0063 鹿児島市鴨池2-24-1 篠原ビル1階

TEL:099-257-2611 FAX:099-257-2613

2016年4月14日21時26分に発生した熊本県熊本地方を震源とするM6.5、最大震度7の激震を観測した熊本地震は、その28時間後の4月16日1時25分頃には、同じく熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード7.3、最大震度7の地震を発生させました。4月19日には八代市を震源とする震度5強の地震も起きてています。

そして、6月12日には再び八代市付近を震源とするマグニチュード4.3、震度5弱の地震が起きました。

この一連の地震は、さらに拡大する傾向を見せ、予断は許されない状況にあります。

地震予知総合研究振興会の松浦律子部長は、熊本地震は昨年11月14日にマグニチュード7.1を記録した薩摩半島西方沖地震に端を発したと見て、同時に「この地震の震源（薩摩半島西方沖）と日奈久断層帯を結ぶ海域などは地震が起きやすくなっているかもしれない」と警告を発しています（東京新聞2016.4.18）。この5月6日から6月4日までの間に薩摩半島西方沖ではマグニチュード4以上の地震が15回連続して起っています。

川内原発は、薩摩半島西方沖と日奈久断層の間に存在しています。両方の断層帯のひずみが解放され、逆にその中間にある川内原発周辺のひずみが大きくなり、大地震が引き起こされる可能性を指摘するものです。

川内原発近傍には、甑断層、甑海峡中央断層、五反田川断層が確認されています。国の地震調査委員会は、活断層の川内原発側の端が判然とせず、原発側に伸びている可能性を指摘しています。さらに昨年9月、日本地質学会長野大会において田中均熊本大学教授は、「九州山地西縁の日奈久断層の再検討」として、臼杵一八代構造線（中央構造線）の延長と考えられる日奈久断層が、地質調査の結果、さらに薩摩川内市沖合に伸びていることを示しています。

このまま、漫然と川内原発を稼働し続けることは許されません。

以下、申し入れます。

一 川内原発を即刻停止せよ。

2016年6月15日

鹿児島県知事

伊藤祐一郎 様

申し入れ

6月12日の八代地震を踏まえ、川内原発を即刻停止させよ

とめよう原発、かごしまの会

代表 平良行雄

〒899-0063 鹿児島市鴨池2-24-1 篠原ビル1階

TEL:099-257-2611 FAX:099-257-2613

2016年4月14日21時26分に発生した熊本県熊本地方を震源とするM6.5、最大震度7の激震を観測した熊本地震は、その28時間後の4月16日1時25分頃には、同じく熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード7.3、最大震度7の地震を発生させました。4月19日には八代市を震源とする震度5強の地震も起きてています。

そして、6月12日には再び八代市付近を震源とするマグニチュード4.3、震度5弱の地震が起きました。

この一連の地震は、さらに拡大する傾向を見せ、予断は許されない状況にあります。

地震予知総合研究振興会の松浦律子部長は、熊本地震は昨年11月14日にマグニチュード7.1を記録した薩摩半島西方沖地震に端を発したと見て、同時に「この地震の震源（薩摩半島西方沖）と日奈久断層帯を結ぶ海域などは地震が起きやすくなっているかもしれない」と警告を発しています（東京新聞2016.4.18）。この5月6日から6月4日までの間に薩摩半島西方沖ではマグニチュード4以上の地震が15回連続して起っています。

川内原発は、薩摩半島西方沖と日奈久断層の間に存在しています。両方の断層帯のひずみが解放され、逆にその中間にある川内原発周辺のひずみが大きくなり、大地震が引き起こされる可能性を指摘するものです。

川内原発近傍には、甑断層、甑海峡中央断層、五反田川断層が確認されています。国の地震調査委員会は、活断層の川内原発側の端が判然とせず、原発側に伸びている可能性を指摘しています。さらに昨年9月、日本地質学会長野大会において田中均熊本大学教授は、「九州山地西縁の日奈久断層の再検討」として、臼杵一八代構造線（中央構造線）の延長と考えられる日奈久断層が、地質調査の結果、さらに薩摩川内市沖合に伸びていることを示しています。

このまま、漫然と川内原発を稼働し続けることは許されません。

以下、申し入れます。

一 川内原発を即刻停止させよ。